



2021年2月1日

### 製造業者へのお知らせー告知とコメント

2020年2月4日、R&AとUSGAはディスタンスインサイトレポートを「ゴルフにおける飛距離の影響」という名称の結論文書と共に公表しました。その結論文書の中で、私たちは特定されている幅広い問題に対処するための一連のより具体的な研究トピックの公表を公約しました。その情報は当初2020年3月19日までに公表する予定でした。しかしながら、私たちはその「次の段階」を現在まで先延ばしにしてきました。本日、私たちは用具規則制定過程に基づき、追加的な研究トピックについてさらなる「関心のある分野」の告知文書を公表しました。追加的な研究トピックに取り組むことに加え、結論文書の中で私たちは下記を含むいくつかの別のトピックに取り組むことも公約していました。具体的には：

- 飛距離制限に関連する用具テストの実効性を確保するために私たちの用具テスト過程、プロトコル、そして基準を見直すこと。
- ゴルフコースデザイン、農学、管理、そしてセットアップがどのように飛距離に影響を与え得るのかについて評価し、ガイダンスを提供すること。そして、
- すべてのレベルのゴルファーにとって十分に短い前方のティーやホールのプレー距離に適切なティーの利用可能性について評価し、ガイダンスを提供すること。

したがって、別のワークストリームとして、私たちは昨年間にいくつかの具体的なトピックについての取り組みを進める機会を持ちました。

この連絡の目的は、製造業者にフィードバックを求める「告知とコメント」として、3つの具体的な提案を公表することです。

### クラブの長さーローカルルールひな型 (MLR) によって 46 インチに減じることができる

このトピックに関する「関心のある分野」の告知は2014年12月17日に製造業者に公表され、パターを除くクラブの最大長を48インチから46インチに減じるという提案は、この提案について行われていた研究の示唆を含め、2016年10月17日に伝達されました。この提案へのコメントは2017年1月20日までに提出することが要請されました。受理されたコメントは熟慮されました。そうしたコメントのほとんどは、プレーヤーのバッグの中に46インチを超えるクラブがまん延していることへの懸念に関連するものでした。2018年6月に私たちは提案された規則変更に関連するプロセスを中断することを連絡しました。この中断はディスタンスインサイトプロジェクトのデータ収集の段階に着手する私たちの意図に関連していました。

2020年2月のディスタンスインサイトプロジェクトレポートの公表に伴って、R&AとUSGAは、委員会がパターを除くクラブの最大長を46インチに制限することを認めるローカルルールひな型 (MLR) を利用できるようにするという提案をここに行います。測定方法は用具規則で定められている方法のままとし、クラブの長さの決定の忠実性を確保するための妥当な便宜が図られることとなります。このローカルルールひな型 (MLR) は、用具に関連する他のローカルルールと同じく、高い技量を有するプレーヤーに限定された競技（つまり、プロフェッショナルやエリートアマチュアの競技）でのみ採用

することが推奨されると現在は規定されています。この提案へのコメントは 2021 年 3 月 4 日まで(この告知から 30 日以内)に提出することが要請されます。

## ゴルフボールのテスト方法の更新

2002 年に採用された標準総合距離(ODS)に関連するテストの更新後、テストプロトコルは基本的に変更されないままでした。当時、私たちは標準総合距離(用具規則パート 4、6 項)への適合性の決定に用いられるテスト条件を変更することに価値があるかどうかを検討しました。私たちはボールの実際の打ち出し条件(ALC)がボールの総合距離を決定するために用いられることになると決定しました。ALC を用いたテストは今日まで引き続き用いられている方法となります。現在、私たちは境界内でボールの最適な打ち出し条件を用いるようにテスト条件を修正することを提案しています。

ボール速度は依然として現在のプロトコル(メカニカルゴルファーを用い、キャリブレーションドライバーを用いてクラブヘッド速度 120mph でスイングしてボールを打ち、キャリブレーションボールは 10 度の角度で打ち出され、毎秒 42 回転する)によって決定されることになります。しかしながら、ボールの実際の打ち出し条件を使うのではなく、ボールの最適な打ち出し条件が用いられることとなります。最適な打ち出し条件は、その球の総距離が最適化されるように、打ち出し角が 7.5 度から 15 度の間、バックspinは 2200rpm から 3000rpm の間で定められます。この数値が制限値の 317 ヤード + 現在のテスト許容誤差 3 ヤードに対してそのボールの適合性を決定するために用いられることとなります。

私たちはこの変更が採用された場合、ゴルフボールの新規提出と同様に、以前に提出されたゴルフボールを再掲載することを通じて段階的に行われることを想定しています。この提案へのコメントは 2021 年 8 月 2 日まで(この告知から 181 日以内)に提出することが要請されます。

提案されているテスト方法に関するさらなる詳細と現在適合球リストに掲載されているボールへの影響については、適切な時に利用可能となるでしょう。そのボールの最も飛距離の出る向きでの最適な打ち出し条件がボールの球体としての対称性(用具規則パート 4、4 項)を評価するために用いられることが提案されています。

## テスト許容誤差の変更－特性時間(CT)

用具規則の前文には下記の記述が含まれています：

*「クラブ、球、機器、その他の用具、あるいはそれらの一部が用具規則の中である仕様に適うことが求められる場合、その仕様に適う意図を持ってデザインされ、製造されなければならない。」*

用具規則に規定されている仕様についての用具の適合性評価では、測定の反復性と再現性を確保するために許容誤差を用いています。エキップメントスタンダードグループではテスト方法と明確性を改善することに継続的に目を向けています。テスト許容誤差の見直しはそうした改善に関連します。この提案はクラブのスプリング効果(用具規則パート 2、4c(i)項)の評価に関連するテスト許容誤差の更新に関連しています。このセクションでは「ペンデュラムテストプロトコル(テスト内規)」について言及しています。ペンデュラムテストプロトコルでの 18 マイクロセカンド以内というテスト許容誤差はキャンテストを行う際の許容範囲内を再現するようにデザインされていました(2003 年 12 月 2 日付の連絡)。しかしながら、2003 年 11 月に発行された「ペンデュラムテスト技術解説書」に詳述されているように、ゲージ R&R 分析(反復性と再現性)では、ペンデュラムテストにおける実際のテスト許容誤差は 6 マイクロセカンドでした。

そうしたことから、私たちはペンデュラムテストのテスト許容誤差を 6 マイクロセカンドに修正する提案を行います。この数値はロフト角 35 度未満のクラブの適合性の評価に用いられることとなります。さ

らなる詳細については 2016 年 1 月 11 日付の連絡を参照してください。また、ペンデュラムテストは適切な曲率半径を有するクラブのスクリーニングに用いられることにもご留意ください。この提案の一部として、インパクトエリア外の特性時間 (CT) の制限 (用具規則パート 2、4c(ii)) の廃止が検討されることとなります。

この提案へのコメントも 2021 年 8 月 2 日まで (この告知から 181 日以内) に提出することが要請されます。

## 要約

分野	要旨	適用	コメント締切日
クラブの長さ	パターを除く)クラブの長さを 46 インチに制限するローカルルールひな型の採用を可能とする	高い技量を有するプレーヤーに限定された競技 (つまり、プロフェッショナルやエリートアマチュア競技) でのみ採用することが推奨	2021 年 3 月 4 日
ゴルフボール	標準総合距離 (ODS) で最適な打ち出し条件の使用	リスト掲載の条件を修正したゴルフボール (新規提出と再提出) のテスト	2021 年 8 月 2 日
スプリング効果	ペンデュラムテストプロトコルでテスト許容誤差を 18 マイクロセカンドから 6 マイクロセカンドに減じる	修正したテスト許容誤差を用いてリスト掲載のためのクラブをテストする	2021 年 8 月 2 日

この告知で参照されている出版物は USGA と R&A のウェブサイトで見ることが可能となっていることにご留意ください。個々の告知期間を通じて、利害関係者からのコメントを歓迎します。そうした連絡は R&A スティーブ・オットー教授 (equipmentstandards@randa.org) までメールでお寄せください。